

平成19年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」結果のまとめ

1 実施目的	生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施
2 実施調査	1年生：国語，数学，英語，質問紙調査 2年生：質問紙調査
3 実施対象	県内の公立高校1年生 約16,500人 県内の公立高校2年生 約16,300人
4 実施期間	平成19年10月15日（月）から10月19日（金）

5 1学年教科別ペーパーテストの結果の主な特徴			
教科	分析結果 (昨年度)	正答率 (昨年度)	正答率が上昇した学校の主な取組
国語	全体的な力は昨年度と同程度 ・小説の設問がやや難化。 ・基本的な語彙や慣用表現は正答率が高い。 ・古文の正答率は低い。	53.1 (56.3)	「学び直し」等，導入期に中学校段階の内容を復習し，基礎学力を定着させる取組。
数学	全体的な力が昨年度より向上 ・基本的な計算や公式・定理を利用する問題は正答率が高い。 ・文章題やグラフを活用する問題の正答率が低い。	61.3 (58.8)	「学習記録簿」の活用，「週末課題」を設定する等の家庭学習の習慣付けを徹底する取組。
英語	得点率は昨年度よりも上昇 3級レベル以上は35.4% (36.4%) ・文法，語法の基礎事項は正答率が高い。 ・リスニングの正答率の伸びが低く，応用的な読解の問題は正答率が低い。	B 59.8 (57.9) C 55.2 (49.7) D 48.2	「朝学習」「朝読書」や「放課後の学習会」等の，学校での学習時間を確保する取組。 生徒一人ひとりの理解と学ぶ意欲を重視した授業改善の取組。

6 1学年・2学年意識調査結果の主な特徴		
学年	分析結果	学校をあげての活動や取組
1学年	大学進学希望者が増加。「授業が理解できる」が増加。 受たい授業は「分かる授業・興味関心がもてる授業」。 家庭学習の時間は全体的に増加。 家庭学習での悩みは「集中できない」「部活動との両立」。 家庭で最も時間をかけているのは、「テレビやビデオ」，「電話やメール」。 必ず朝食をとっているのは約7割。	学校をあげての活動や取組 「分かる授業」を目標とした授業改善 ・公開研究授業を組織的に設定 ・習熟度別，TT，少人数などの授業形態工夫 ・県のオンデマンド事業等の活用
2学年	大学進学希望者が増加。「授業が理解できる」が増加。 受たい授業は「興味関心がもてる授業」。 家庭学習の時間は1年次より減少。 家庭学習での悩みは「集中できない」。 家庭で最も時間をかけているのは、「テレビやビデオ」。 必ず朝食をとっている生徒は1年生より少ない。	家庭学習時間確保のための家庭との連携。 進路希望の選択や学習での悩みに対する面談指導の充実

【考察】

高校入学後半年経過しての1年生の学力状況については、昨年度と比較すると、数学・国語は上昇または同程度であるが、英語の基礎学力が不足している生徒が微増している。

1年では、「家庭学習時間」・「授業を理解している」割合が増加しているものの、三分之一が学習していない状況であり、2年では「1年次よりも家庭学習時間が減少」という問題がある。

学校が学力・学習状況調査を活用し、組織的に授業改善等に取り組んだ結果、成果が上がっているケースが多く、県の事業であるオンデマンド事業，地域発信アクション校の活用が進んでいる学校の学力伸長度が高い。

平成19年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」

結果の概要

調査の概要等

【第1学年】

- (1) 生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施
- (2) 公立(県立・仙台市立・石巻市立)高等学校の92校178学科の1年生、県内の約16,500名を対象に、平成19年10月15日(月)から10月19日(金)までの間、各学校で実施

学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語、数学、英語の3教科のペーパーテスト
(ただし、数学は各学校の履修に応じて問題を選択して、定時制課程は教科数を減じて実施できる。)[定時制課程13校中8校で教科数を減じた]
- ・国語、数学の作問に当たっては、学習指導要領の目標・内容に照らし、平均正答率を60%と設定して作成。
- ・英語の作問に当たっては、「宮城県版英語検定」(テストB, テストC, テストDの3種類から学校の希望レベルに応じて1つ選択)を日本英語検定協会と共同作成。

〔調査実施人数〕

国語 15,364名

数学 15,192名

英語(宮城県版英語検定)
15,306名

テストB	2,877名
テストC	8,244名
テストD	4,185名

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

アンケート調査 15,544名

【第2学年】

- (1) 生徒の学習状況及び進路意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てるために実施。
- (2) 公立(県立・仙台市立・石巻市立)高等学校の95校183学科の2年生、県内の約16,300名を対象に、平成19年10月15日(月)から10月19日(金)までの間、各学校で実施

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

アンケート調査 15,269名

調査結果の概要と分析

1 1学年ペーパーテストの教科別結果

国語 正答率は、53.1%（昨年度56.3%）。

全体的な力は昨年度と同程度

小説の設問がやや難化したため、昨年より3.2ポイント下がった。基本的な語彙や慣用表現は正答率が高く、古文の正答率は例年と同じく低かった。

数学 正答率は、61.3%（昨年度58.8%）。

全体的な力が昨年よりも向上

昨年度と同じ設問である「無理数の計算」、「二次方程式の解法」、「二次関数の平行移動」を比較すると、正答率が1.2、5.2、4.6ポイント上昇しているが、複数の文字を含む因数分解や文章を読んで式を立てる問題及びグラフを活用して解く問題の正答率は低かった。

英語 得点率は、テストB 59.8%（昨年度57.9%）、

テストC 55.2%（昨年度49.7%）、

テストD 48.2%（昨年度なし）

（参考：昨年度テストA 53.6%）

注）平成18年度はテストA，テストB，テストCで実施。

テストB：出題レベルは英検2級～3級程度。英検準1級から5級までの力を測定できる。

テストC：出題レベルは英検準2級～4級程度。英検2級から5級までの力を測定できる。

テストD：出題レベルは英検3級～5級程度。英検準2級から5級までの力を測定できる。

（テストA：出題レベルは英検準1級～準2級程度。英検1級から5級までの力を測定できる。）

得点率はそれぞれ上昇したものの、3級レベル以上は35.4%にとどまる

表現（英作文）の正答率がテストB，C，D平均すると、16.7ポイント、文法・語法では平均して9.6ポイント上昇したが、他の分野に比べリスニングの得点率の伸びは低かった。また、受験者ごとのレベル判定については、一つの目安としている3級レベル以上の生徒の割合が、昨年度より1.0ポイント下がり35.4%であった。

図1 国語・数学の正答率の推移

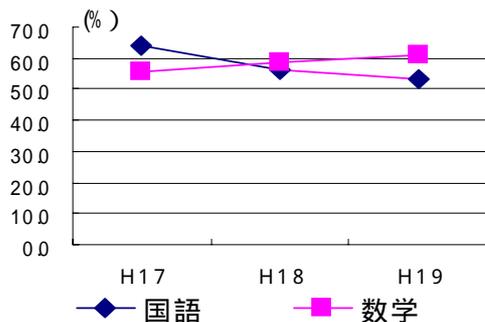
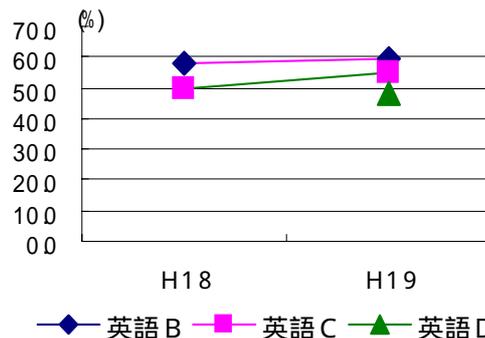


図2 英語の正答率の推移



< 英語の級レベル分布状況 >

	2級 レベル以上	準2級 レベル	3級 レベル	4級 レベル	4級 レベル未満
H19	1.2%	6.7%	27.5%	22.1%	42.5%
H18	0.6%	6.4%	29.4%	22.5%	41.1%

注）英語検定級と中学校・高校の学習との関連（目安）

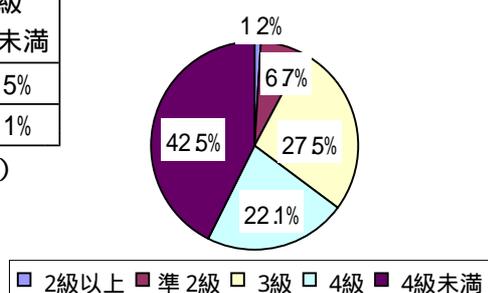
2級 ... 高校卒業程度

準2級 ... 高校中級(2年生)程度

3級 ... 中学校卒業程度

4級 ... 中学校中級(2年生)程度

図3 英語の級レベルの割合



2 1 学年ペーパーテストの結果分析と改善の方向

国語

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

平易な漢字の読み書きや慣用表現の正しい使い方については、概ね理解できている。
使用頻度の低い言葉や使用範囲の限られた専門的な言葉の知識、漢字の音読みに比べて訓で読む力、文脈から言葉の意味を考え適切に漢字に直す力は不足している。
敬語の使い方や、主語・述語の関係など文の基本構造の把握に課題がみられる。

⇒ 課題 1：話す・聞く・書く・読む体験が限定的で不足しており、表現力、理解力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が十分身に付いていない。

文章を限られた狭い範囲で読み取るとは概ねできている。

文章全体の展開をおさえて要旨を捉えたり、物語の大きな枠組みを意識して細部を読んだりすることは、あまりできていない。

論理的な文章の構成や展開を把握し、抽象的な内容を具体化して考える力が弱い。

情景描写によって心情を象徴的に描く文学的表現の理解が不十分である。

⇒ 課題 2：文章の全体像をおさえた読み方、文章の特徴に応じた読み方に関する指導の工夫が不足している。

基礎的な古語や文法など、古典を読むための知識・技能が十分身に付いていない。

古典を読むことに不慣れで、構成や展開に即し内容を的確に捉える力が不足している。

⇒ 課題 3：古典に親しませ、その現代的な価値に気付かせるような指導の工夫が不足している。



改善の方向

基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるために、話す・聞く・書く・読む活動と結び付けた指導、実生活を意識した指導を工夫する。

・漢字指導は、単純な反復練習にならないよう、読む・書く活動と連動させながら、その漢字を用いた語例や文例を複数あげる、字義を確認し訓と関連付けるなどする。

・相手や場面を具体的に想定した話す・書く活動を行い、言葉の運用について考えさせる。
文章の特徴に応じた読み方を身に付けさせるために、読む視点を明確化させるようなプリントや発問、指導法を工夫する。

・段落毎の要点や全体の構造、場面設定や人物関係など、読み方のポイントについて生徒自身が考え整理できるようなプリントを工夫する。

・書き手の表現意図や表現効果などを問う発問をする。

・教材文を他の文章と比較して読ませ、論理の展開や表現の特徴について考えさせる。

古典への興味・関心を高めるために、教材や学習活動を工夫する。

・古典原文だけでなく、古典に関する解説文、小説、随筆、評論なども教材とする。

・音読、朗読によって古典の文体やリズム感を味わわせる。

・旧暦、国名、十二支、年中行事など、身近に生きる古典的な事柄について調べさせる。

・古典の言葉や語法を、現代の言葉や語法と比較して調べさせ、理解させる。

語彙力、言語感覚、読解力、表現力など国語力を総合的に育成するために、さまざまな分野にわたり数多く読書させる。

・本の広告カードづくり、友人に薦める本の紹介スピーチ、書評など、表現活動の題材に読書や本を取り上げ、読書意欲を喚起する。

・授業の教材から発展し、同テーマを別の視点から書いた文章や作品を比べて読ませる。

国語に対する生徒の学習意欲を一層高め、これからの時代に求められる論理的な思考力や表現力を育成するために、教材や学習活動を工夫する。

・読むことの指導に、読み取ったことをもとにした、話し合い、発表、ディベートなど話す・聞く活動や、要約、書き換え、意見文、鑑賞文など書く活動を取り入れる。

・興味のある時事的な話題について、新聞、雑誌などの記事を集め、記事をもとに事実と意見をまとめたり、記事同士を比較、分析したりさせる。

・図表などの資料を分析し、明らかになった事実を根拠に自分の考えをまとめ書かせる。

数学

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

基本的な計算の力、簡単な方程式・不等式の解法など、規則的に対応できる問題を解く力は比較的身に付いている。

複雑な表現や複数の文字を扱う問題は無答率が高く、じっくりと考える姿勢が身に付いていない。

⇒ 課題 1：数学を学ぶ楽しさや学ぶ意欲を向上させる指導の工夫が不足している。

公式を用いて答えを求めることは比較的身に付いている。

公式が成り立つ理由を考える過程や、その過程を応用して解く問題の正答率が低い。

教科書では見慣れない表現の設問については、正答率が下がるだけでなく、無答率が高くなる傾向がある。

⇒ 課題 2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えたり、一つの問題をいろいろな方向から解くなど、その過程を論理的に思考させる機会が少ない。

与えられた文字式を変形し、処理する力は比較的身に付いている。

文字を含む 2 次関数など、文字を具体的な数値に置き換えて、グラフを活用しなければ考察しにくい問題は、正答率が極端に低い。

設問の文章を理解してから式を立てる問題、いわゆる文章問題は、正答率が低く指導改善の余地がある。

⇒ 課題 3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを読んで理解したことを式やグラフ・図を用いて表現する機会が不足している。

改善の方向

数学を学ぶ意欲を向上させるために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・ 日常生活で体験する事柄を数学化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考える。
- ・ 生徒が興味や関心を持つことができる内容をできるだけ多く扱う。
- ・ ICT を活用するなどして、生徒に事象の変化や動きを実感させる指導を工夫する。

論理的に思考する力を育成するために、思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

- ・ 授業中の発問を工夫し、生徒に気付かせたり、生徒のつまずきを生かす視点をもつ。
- ・ 少ない例からすぐに一般化するのではなく、公式や定理を導く過程を具体的な場合で振り返る。
- ・ 問題の解法が公式や定理を導く過程と一致しているものを扱い、公式や定理が役に立つことに気付かせる指導を工夫する。
- ・ 発表や検討（練り合い）などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させる機会を設定する。

論理的に表現する力を育成するために、用語・記号を丁寧に説明するだけでなく、数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

- ・ 数学で用いられる用語や記号の指導を工夫し、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていく工夫をする。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

- ・ 文字を具体的な数にした場合をいくつか比較するなど、実感が伴った分析ができるようにする。
- ・ 式変形だけで思考させず、グラフを利用する場面、表を利用する場面、図形を利用する場面など、様々な場面で思考させる工夫をする。

英語（テストCを中心に）

分析と課題

（・・・相当数の生徒ができています。・・・課題がある。）

授業でよく使われる日常会話の初歩的な語彙・熟語は理解できている。

文の前後関係や会話のやりとりから判断して語彙・熟語を選択したり文法事項を理解した上で解答するといったやや複雑な設問になると正答率が低い。

⇒ 課題1：語彙力が低下し文法の理解が不足している

基本的な定型表現はある程度理解し活用できている。

単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれやや複雑な設問になると、正しく英文を構成することが困難になる傾向がある。

⇒ 課題2：連語を含んだ表現の英作文が弱い

基本的な5W1Hの問いかけの解答状況を見ると、大意を把握する力はある。

表現形態を変えた文章になると的確にとらえられないため、意味を正しく理解する力が不十分である。

⇒ 課題3：精読の訓練が不十分である

リスニングにおいては、対話と、まとまったテーマの英文を聞いてその内容に答える設問については、内容が分かりやすいものは正答率が高い。

内容がやや複雑になると、質問文の疑問詞を正しく聞き取れず、単純に会話中に出てきた語句を選択する傾向があり、順序立てて記憶したり、設問内容を正確に聞き取って適切に答える力が不足している。

⇒ 課題4：疑問詞などポイントとなる語彙の正確な聞き取りと記憶を助けるためのメモの取り方等の訓練が不十分である

改善の方向

語彙力向上のために、語彙学習の機会を授業の中に計画的に組み込む。

- ・単語小テストを継続的に実施する。
 - ・文脈から意味を推測する方法など語彙の効果的学習方法を教える。
- 文法を定着させるために、文法の基礎的事項について、宿題等も活用して学習させ確実に身につけさせる。また、学んだ文法事項を盛り込んだコミュニケーション活動を積み重ねる。
- 表現力を育成するために、授業の中で「書くこと」の時間を確保する。
- ・英語における「読むこと」に関連づけた「書くこと」の活動を行う。
 - ・オーラル・コミュニケーションでは、「聞くこと」及び「話すこと」の指導の効果を高めるために、「書くこと」とも関連付けた活動を行う。
 - ・単語だけでなく熟語やイディオムなど連語が含まれた表現を与えて、それをういた「書くこと」の活動を行う。

読む力を養うために、文章の様々な読解方法を活用する。

- ・概略を把握するためのスキミング（skimming）指導
- ・必要な情報を選び出すためのスキヤニング（scanning）指導
- ・英文の内容と表現を深く詳細に分析しながら読むための精読（intensive reading）指導
- ・教室外での多読（extensive reading）の奨励

聴く力を養うために、英語を聞かせる機会を多く設定する。

- ・教師が授業において英語を使用する割合を増やす。
- ・生徒に聴くポイントやヒントを随時与えて、目的を持ったリスニングを多く経験させる。
- ・まとまった文章をメモをとりながら聴き取る訓練をする。

英語を学ぶ意欲を向上させるために、生徒の興味・関心・意欲と習熟の状況に見合った段階的指導の充実を図る。

高校導入期に、中学校英語の総復習をするなど、中学校での指導内容との連携に配慮する。生徒の興味・関心を持続させるために、飽きさせない工夫をするとともに、英語の授業を英語で行う割合を増やすように努める。

3 1学年アンケート調査の結果と分析状況 ※過去の1年生との比較

(「H17全国高3」は全国の高3のデータで、文部科学省実施の平成17年度高等学校教育課程実施状況調査結果による。また、回答率において「無回答」の割合は省略。)

(1) 「現在最も強く希望している進路は」 **大学進学希望者は増加傾向**

	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%
H17全国高3	52.5%	6.7%	19.4%	19.2%	1.8%	0.4%

<分析> 大学進学希望者が昨年度より1.5ポイント増加。逆に専門学校希望者が1.2ポイント減少している。

図4 進路希望別の割合の推移

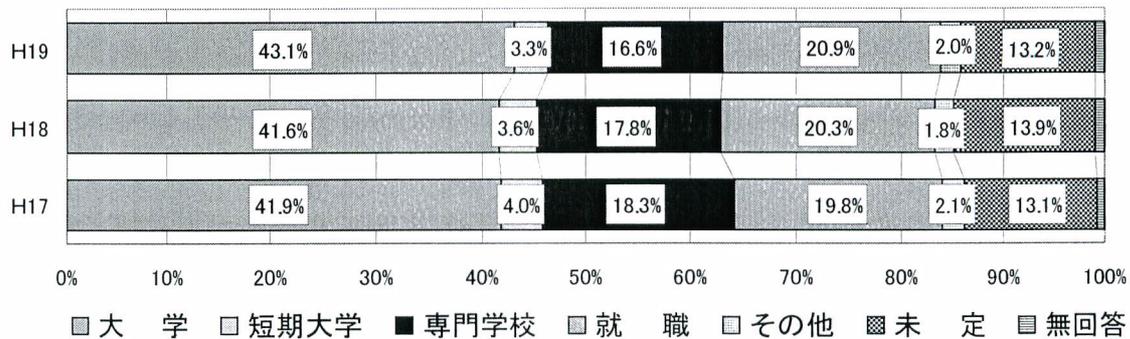
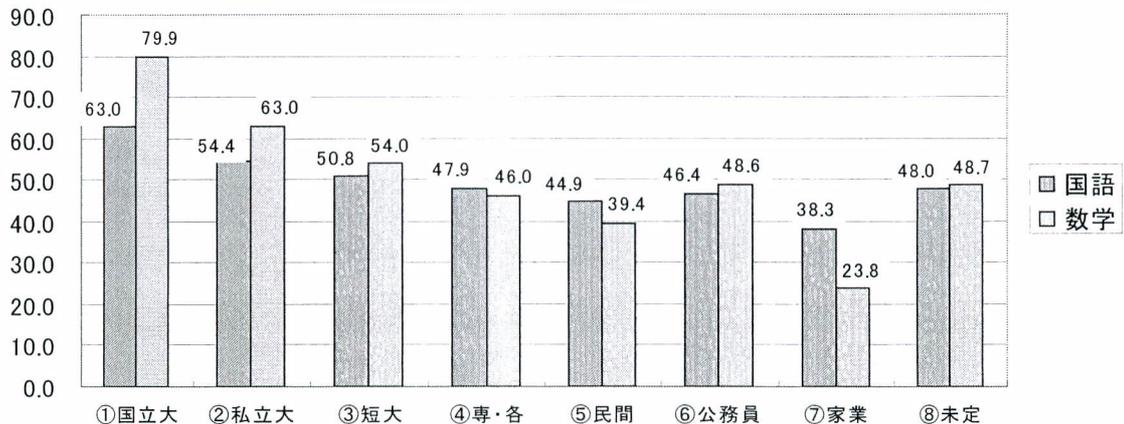


図5 進路希望別の国語・数学の正答率

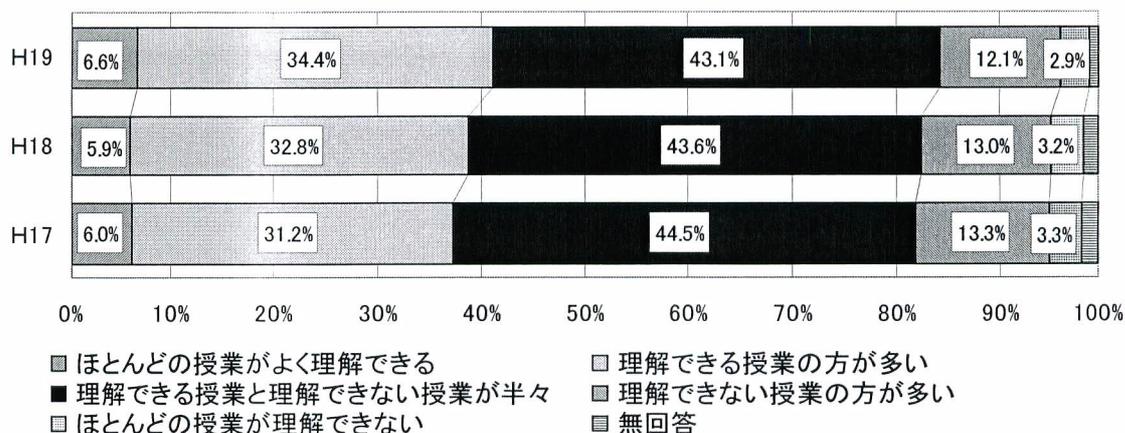


(2) 「授業がどのくらい理解できるか」 **「授業が理解できる」が増加**

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多	ほとんどの授業が理解できない
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%
H17全国高3	4.3%	37.0%	39.9%	14.2%	3.6%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が41.0%で昨年度より2.3ポイント増加。

図6 授業理解度の割合の推移



(3) 「受たい授業はどんな授業か」 「分かる授業」「興味関心がもてる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心がもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%

<分析> 受たい授業としては、1位「興味関心がもてる授業」(38.2%)、2位「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」(36.5%)。

(4) 「平日の学習時間」 学習時間は全体的に増加傾向、2～3時間集中した学習が効果的

平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度しているか。

	全く、またはほとんどしない	30分より少ない	30分～	1時間～	2時間～	3時間～	4時間～	5時間以上
H19	33.3%	13.1%	16.2%	23.5%	10.3%	2.1%	0.4%	0.3%
H18	33.9%	12.7%	17.0%	22.6%	9.8%	2.1%	0.4%	0.2%
H17	36.7%	12.6%	15.7%	21.0%	10.4%	2.5%	0.5%	0.3%
H17全国高3	39.3%	8.2%	7.6%	9.8%	10.8%	23.9%		

<分析> 平日の学習時間は昨年度よりも「2時間以上」が増加、「ほとんど学習していない」が0.6ポイント減少。

図7 家庭学習時間の割合の推移

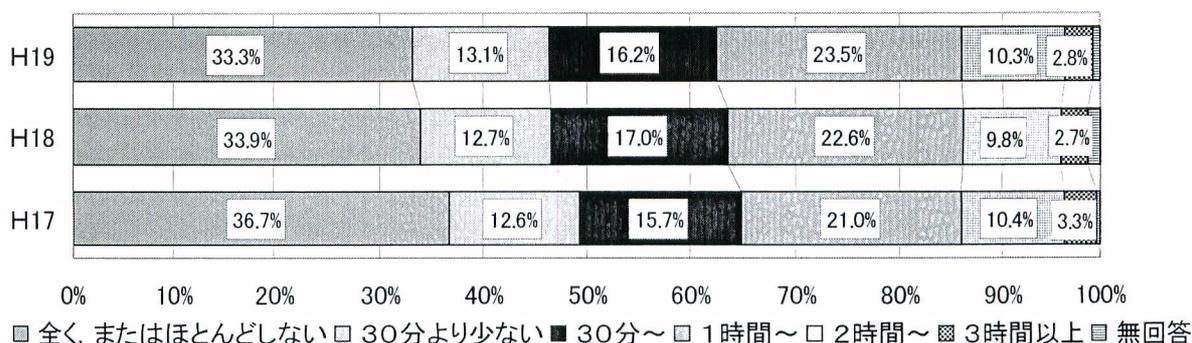
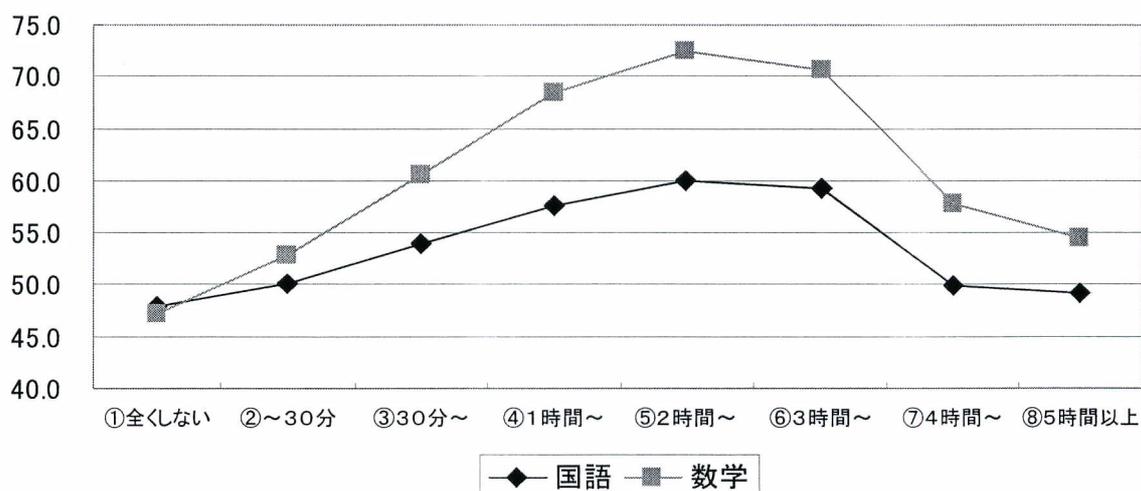


図8 家庭学習時間と国語・数学の正答率との関係



(5) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が増加傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	宿題・課題や 考査前	宿題・課題がある とき	考査前	塾・予備校がある時や 家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H19	14.1%	4.5%	6.8%	36.0%	4.4%	7.2%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	36.1%	5.1%	7.6%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	34.8%	4.4%	8.1%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%

<分析> 「ほぼ毎日学習している」は昨年度より1.1ポイント増加

(6) 「家庭学習をする上で悩んでいること」 「集中できない」、「部活との両立」が悩み

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%

<分析> 学習上の悩みは「集中できない」「部活動との両立」が主な理由。

(7) 「平日に家で最も時間をかけて行っていること」 「電話やメール」が増加傾向

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%

* 「ゲームやパソコン」の項目は、H18までは「ゲーム」のみでの調査である。

<分析> 家庭で最も時間をかけて行っているのは、1位が「テレビやビデオ」(23.9%)、2位が「電話やメール」(22.0%)

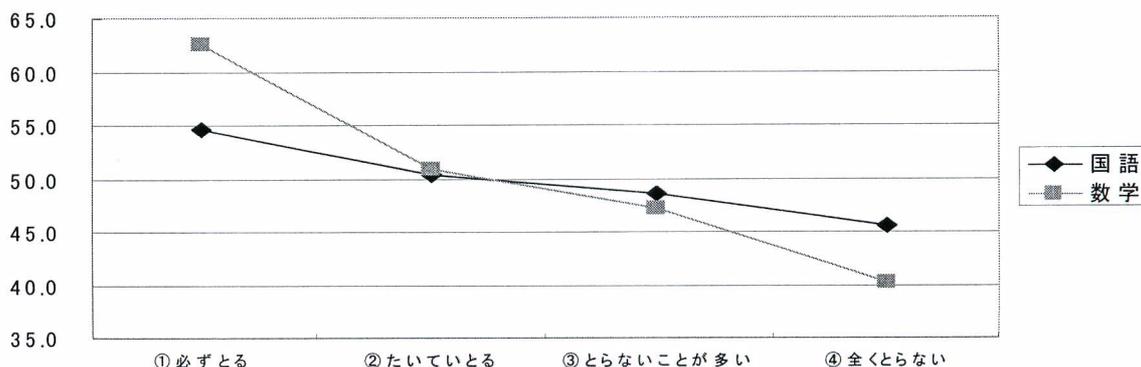
(8) 「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる規則正しい生活が重要

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析>朝食をとっている生徒の正答率は高くなっている。

図9 朝食のとり方と国語・数学の正答率との関係



4 2 学年アンケート調査の結果と分析状況

※1年次との比較

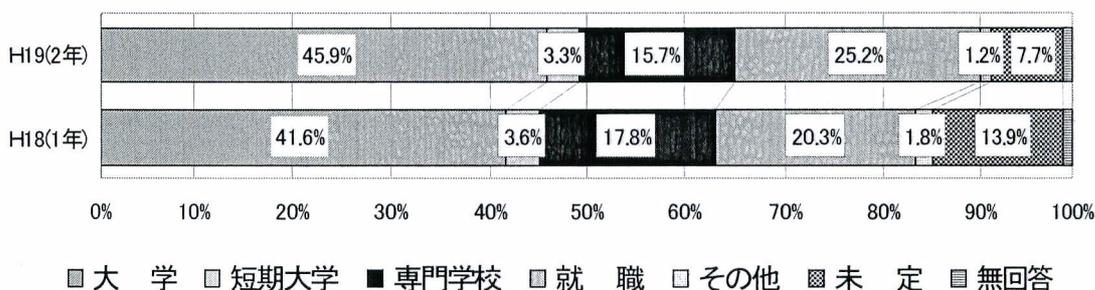
(1) 「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化

	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H19(2年)	45.9%	3.3%	15.7%	25.2%	1.2%	7.7%
H18(1年)	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%

<分析>大学進学希望者と就職希望者が1年次よりそれぞれ4～5%増加。

図10 進路希望別の割合の推移



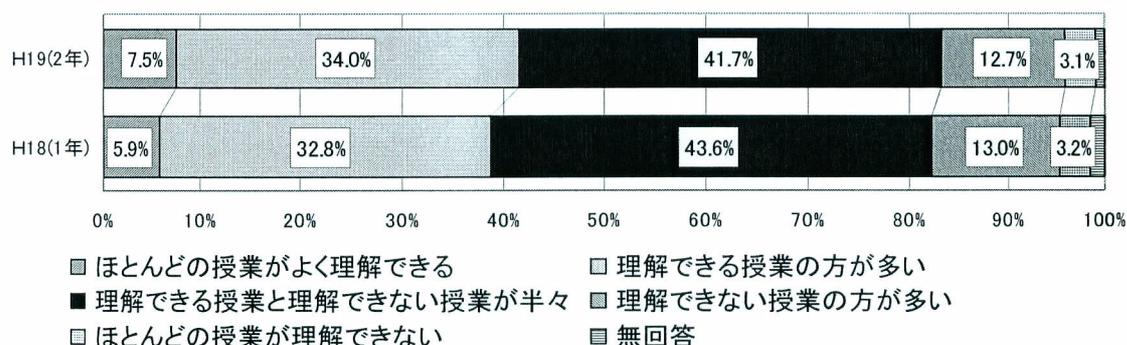
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が増加傾向

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多	ほとんどの授業が理解できない
H19(2年)	7.5%	34.0%	41.7%	12.7%	3.1%
H18(1年)	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%

<分析>「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が41.5%で1年次より2.8ポイント増加。

図 1 1 授業理解度の割合の推移



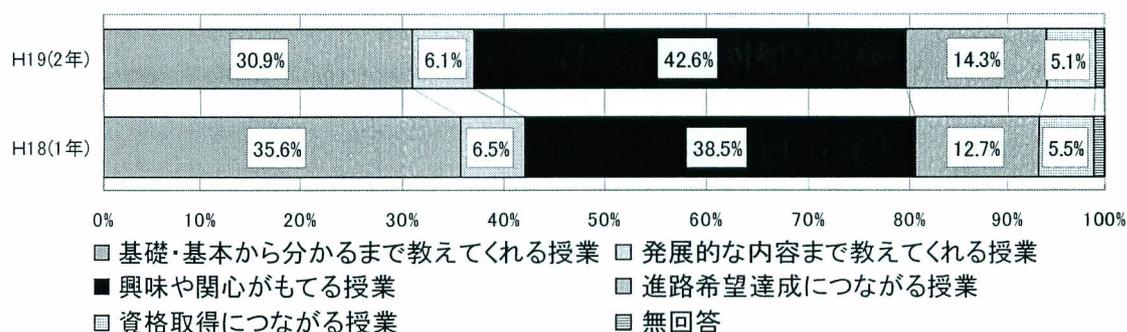
(3) 「受きたい授業はどんな授業か」

「興味や関心をもてる授業」に期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心をもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H19(2年)	30.9%	6.1%	42.6%	14.3%	5.1%
H18(1年)	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%

<分析> 「興味や関心をもてる授業」が大幅に増加し、1年次よりも4.1ポイント増加。

図 1 2 受きたい授業の割合の推移



(4) 「平日の学習時間」

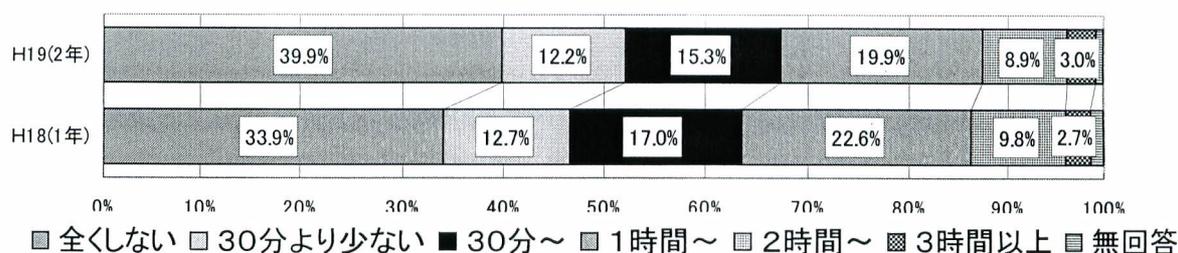
「全くしない」が増加、1年次よりも学習時間が減少

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	全く、またはほとんどしない	30分より少ない	30分～	1時間～	2時間～	3時間～	4時間～	5時間以上
H19(2年)	39.9%	12.2%	15.3%	19.9%	8.9%	2.1%	0.5%	0.4%
H18(1年)	33.9%	12.7%	17.0%	22.6%	9.8%	2.1%	0.4%	0.2%

<分析> 平日の学習時間は大幅に減少し、「ほとんど学習していない」6ポイント増加。

図 1 3 家庭学習時間の割合の推移



(5) 「どんなときに家庭学習をするか」**「考査前」や「ほとんどしない」が増加傾向**

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	宿題・課題や考査前	宿題・課題があるとき	考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H19(2年)	12.7%	4.0%	5.3%	35.8%	3.4%	11.0%	1.6%	11.3%	13.0%	1.2%
H18(1年)	13.0%	4.5%	6.0%	36.1%	5.1%	7.6%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%

<分析>「ほぼ毎日」が0.3ポイント減少、「ほとんどしない」が2.2ポイント増加。

(6) 「家庭学習をする上で悩んでいること」

「方法が分からない」、「部活動との両立」が減少し、それ以外の項目が増加

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H19(2年)	13.2%	26.7%	15.5%	17.5%	6.2%	4.1%	15.6%
H18(1年)	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%

<分析>学習上の悩みはこの1位は「集中できない」。

(7) 「平日に、家庭で最も時間をかけて行っていること」

「電話やメール」は減少し、「テレビやビデオ」、「ゲームやパソコン」が増加

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン*	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H19(2年)	5.2%	26.3%	10.5%	19.1%	3.8%	16.5%	3.4%	1.1%	12.2%
H18(1年)	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%

* 「ゲームやパソコン」の項目は、H18までは「ゲーム」のみでの調査である。

<分析>「テレビやビデオ」が2.9ポイント増加。

(8) 「学校に行く前に朝食をとるか」

「必ずとる」が1年生よりも少ない割合

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H19(2年)	69.0%	15.8%	7.6%	6.0%
H19(1年)*	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

* 今年度からの調査より、現1年生との比較である。

Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

【各学校】

各学校では、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指す。

○授業改善の推進

「授業が理解できる」と回答した生徒が増えてきており、各学校とも授業改善に努めてきた結果が表れている。ただし、「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒を合わせると1・2学年とも約58%であり、分かる授業実現に向け、一層授業改善を進める。

○宿題を利用した学習時間の確保

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が極めて少なく、学年が進行すると「ほとんどしない」と答える生徒が増える。一方、勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、学習指導計画の中に適度な量と質の宿題・課題を位置付けるなどの工夫をする。

○学校と家庭の連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、学校と家庭が連携して家庭学習を推進する。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、各高校を支援する。

